石薬師小学校　学校経営方針

自ら考え、共に学びあい、進んで行動できる子の育成

２０２４年度（令和６年度）

校内研修の計画

１　研究主題

自ら学ぶ子ども、共に伸びる子どもの育成
～認知能力と非認知能力を共に伸ばす授業づくり～

２　主題設定の理由

本年度の研究主題は、本市の目指す子どもの姿「人とつながり　自ら豊かな未来を切り拓く　鈴鹿の子ども」及び本校の学校経営改革方針「自ら考え、共に学びあい、進んで行動できる子どもの育成」に基づき、「自ら学ぶ子ども、共に伸びる子どもの育成　～認知能力と非認知能力を共に伸ばす授業づくり～」とした。

特に本市では今年度、非認知能力の育成を重視した教育振興基本計画を掲げている。その中でも、鈴鹿市版非認知能力アンケートから、「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」といった非認知能力を重要視すると示された。

本校では２０２１年度から３年間、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」という方針の元、「相手の考えを聴き、自分の考えを伝え、共に学び合う子の育成　～学び合うことで『わかった』『できた』『自分の考えが深まった』などの実感がある授業づくり～」という研究主題を設定した。教科を越えて、ペア、グループ、学級全体、ICT 活用といった様々な形態での子供同士の協同的な学びの充実を目指して、研究を続けてきた。

本年度は、これまでの成果と課題をうけ、鈴鹿市の教育方針をもとに「自ら学ぶ子ども、共に伸びる子どもの育成～認知能力と非認知能力を共に伸ばす授業づくり～」と設定した。研究主題の「自ら学ぶ子ども」とは、対自的な面、すなわち自分と向き合う力、自分を高める力を高めた子どもを示している。「共に伸びる子どもの育成」とは、対他的な面、すなわち他者とつながる力を高めた子どもを示している。そして、そのような非認知能力を育成する授業づくりを目指すことで、非認知能力だけでなく認知能力も高まり、自ら切り拓いていこうとする生きる力をもった子どもを育てることができると考えた。そして、研修の中で本市が特に重要視するといった４つの力を研修の中心に位置づけ授業研究を進めていくことができるよう研修計画を立てることとした。

非認知能力を整理すると

非認知能力		
自分と向き合う力（対自的）	自分を高める力（対自的）	他者とつながる力（対他的）
自制心 忍耐力 レジリエンス（回復力） メタ認知（客観的に自分を見る） 主体性	意欲 向上心 自信・自尊感情 楽観性 グリッド（最後までやりぬく力）	協調性 社会性 コミュニケーション力 共感性

鈴鹿市で重要視していること

「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」

３．取り組みのポイント

（1）目標とする児童の姿の明確化（今年度は特に「やりぬく力」「社会性」の育成に注目して）

〇自ら学ぶ子ども（自分と向き合う力・自分を高める力）
　　やりぬく力、自制心、自己肯定感
〇共に伸びる子ども（他者とつながる子ども）
　　社会性

具体的な子どもの姿

やりぬく力がある子ども	① わからない、できないことを伝えられる ② わからないことに対して、主体的に調べたり解決しようとしたりする ③ 最後まであきらめないで課題に取り組む
社会性のある子ども	① 友達の考えを聴き、受け入れることができる ② 自分の考えをわかりやすく伝えることができる ③ 学び合いを通して協働的に課題を解決することができる

（2）非認知能力育成の視点

1）教師が非認知能力の何を伸ばすのかを明確にして授業に位置付ける（指導案にも明示する）

例えば
「やりぬく力」をつけるには
・意欲や向上心をもってやってみようとする課題設定
・自分を信じてやってみようとする指導の工夫
・楽しんで取り組む課題設定によって最後までやり抜くことができる学習
「社会性」をつけるには
・小グループでの効果的な話し合いを設定する
・意図的に助け合ったり、支えあったりする場面を設定する
・話し合いのスキルを高める

2）児童にもふりかえりなどを通して非認知能力が得られたかメタ認知させる。子供が身に付ける非認知能力を意識して学ぶことができるようにする

①１学期から２学期にかけて、重要視する４点「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」とはどのようなものかを児童に明示する。

②授業の最初に、この中のどの力を伸ばしていくのか伝える。

③ふりかえりにおいてこの４点についてメタ認知させる。

（3）授業においてプロセスを見取る力を教師がもち、児童に価値づける

数値化できない非認知能力が育つ場面を教師が見取る力をもつ

→校内研究授業などを通して、研修していく。

（4）講師の先生による研修

4. 日常の授業における確認事項

（1） 安心して学べる環境づくり

・安心して学べる教室環境づくり　→　教室前面は刺激が少ない環境

・安心して学べる学習集団づくり　→　学習規律「学びの作法」、 学習時の持ち物の徹底、人権学習

（2）協働的な学び合いの日常化

・ペアやグループを活用する。

・多様な答えや、複数の結果、つまずきが起こるような課題設定をする

・効果的に ICT を活用した考えの表現方法を工夫する。

（3）「めあて」「ふりかえり」で授業の見通し、 意欲向上、定着を図る

・「授業力 UP５」を活用した授業づくり

・「ふりかえり」で非認知能力についてふりかえることができるように声掛けを工夫していく

（4）ICT の活用方法について情報交換をする、積極的に活用する

5. 具体的な校内授業研修の方策

（1）全体提案授業

・各学年となかよし学級で１回ずつ全体提案授業を行う。（1 回は人権提案授業）

・教科は国語科、社会科、算数科、理科の中から選択する。

・学年部で事前の指導案検討を行なう。

（2）事後検討会

・事後検討会のもち方を工夫する。昨年度と同じ方法で検討中

（3）学年部会内提案授業

・全員が一回は提案授業をし（全体研修会と兼ねてもよい）、互いに授業を見合い、部会で事後検討会をもつ。

・学年部内提案授業も他学年部への先生方にも指導案（略案）を配付し、実施日や授業内容を周知する。

（4）年度始めや学期始めに「話名人」「聴き名人」について学級で指導する

＜話名人＞

高学年	中学年	低学年
話し名人	**話し名人**	**話し名人**
①相手の顔を見て	①あい手のかおを見て	①あいての　かおをみて
②聞く人に 伝わるように	②聞く人に つたわるように	②きくひとに　つたわるように
③声の大きさを 考えて	③声の大きさを 考えて	③こえのおおきさを　かんがえて
④最後まではっきり話す	④さいごまではっきり話す	④さいごまで　はっきりはなす

＜聴き名人＞

高学年	中学年	低学年
聴き名人	**聴き名人**	**聴き名人**
①相手の目を見て	①あい手の目を見て	①あいての　めをみて
②自分の考えとくらべながら	②自分の考えとくらべながら	②うなずきながら
③うなずき　反応して	③うなずき　反応して	③しせいただしく
④だまって最後まで	④だまって最後まで	④おわりまで

（5）年度始めに「学びの作法」「持ち物」について全体指導する。教室にも掲示する

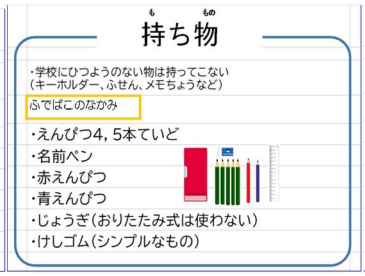
＜学びの作法＞

高学年	中学年	低学年
学びの作法	**学びの作法**	**学びの作法**
①チャイム着席	①チャイム ちゃくせき	①チャイム ちゃくせき
②授業が終わったら 次の授業の準備	②じゅぎょうが おわったら つぎの じゅぎょうのじゅんび	②じゅぎょうが おわったら つぎの じゅぎょうのじゅんび
③えん筆をけずるのは休み時間	③えんぴつを けずるのは 休み時間	③えんぴつを けずるのは やすみじかん
④忘れ物は授業前にほうこく	④わすれものは じゅぎょう前に ほうこく	④わすれものは じゅぎょうまえに ほうこく
⑤良いしせいで	⑤よいしせいで	⑤よいしせいで

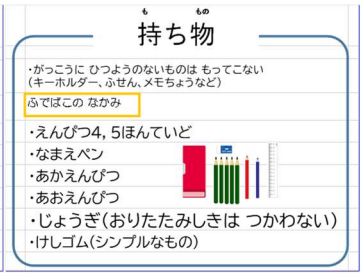
＜持ち物＞

高学年

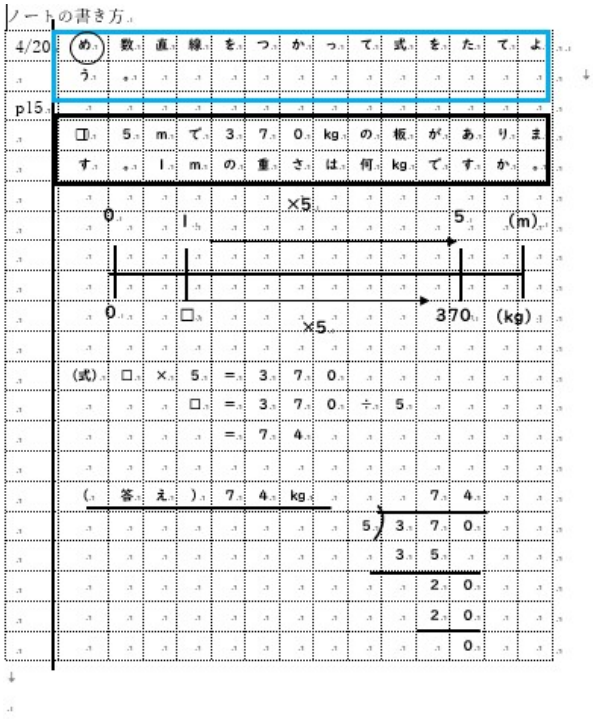
中学年



低学年



(6)ノートの統一を図る



(7)学習の定着状況を検証する(学力調査、三重スタディチェックの活用)

6. 先生方への提案

(1)5分参観

日頃、教員同士で授業を見せ合う余裕がないため、「５分だけ」と参観へのハードルを下げ、気軽に授業を見せ合う雰囲気を作る。

(2)ミニ研修の実施

随時開催。自分の得意なことで３０分以内に準備ができる程度の負担感のないにする。若い先生たちに指導するつもりで授業づくりのヒントになることを１回につき一人担当でお願いする。

できれば、経験が５年以上の先生方に１回ずつお願いしたい。

（3）校外研修への積極的参加

校外での授業研究会への積極的な参加を推進する。各種研修会について研修部でまとめ、計画を立てる。その時の研修報告を５分程度で全体に報告し、情報共有を行う。

7. 年間研修計画

１学期	４月	全体研修会（研修計画）
	４月	学力状況調査 ４・５年みえスタ
	５月	研修、全体提案授業年間計画の策定
	６月	全体授業研修会①
	８月	学調分析、夏季研修会
２学期	９月	全体授業研修会②
	１０月	全体授業研修会③
	１１月	全体授業研修会④
	１２月	全体授業研修会⑤
３学期	１月	全体授業研修会⑥
	２月	全体授業研修会⑦
	３月	全体研修会（まとめ）

＊講師の先生による研修も導入していきたい

校内研修に向けて先生方へのアンケート

研修部

締め切り４月１９日（金）

学年学級（　　）　お名前（　　）

①学年部の全体授業研修会の授業者　（　　）

②希望する全体授業研修会の時期（複数可、特に希望する時期に◎をしてください）

６月　９月　１０月　１１月　１２月　１月　２月

③ご自分が希望する研究授業の教科（　　）

④ミニ研修会を開いていただけるかの可否（どれかに〇をお願いします）

できます　できません　未定

⑤もしミニ研修の開催時期の希望やテーマが決まっていればお書きくだい。

⑥他にお気づきの点やご意見があればお書きください。

ありがとうございました。